

5 産業・交流

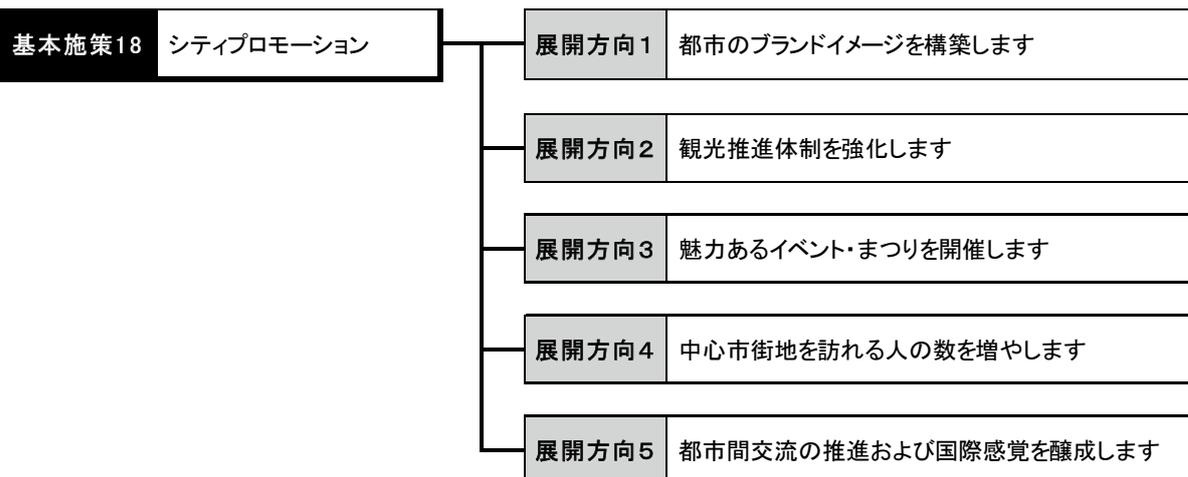
基本施策 18 シティプロモーション*

◆現況と課題

- 全国的に少子高齢化の進展や地域における所得の多くを稼ぎ出している現役世代ともいえる生産年齢（15～64歳）人口の減少に伴い、域内消費の減退が懸念されており、これを補うために域外からより多くの人々を呼び込み、経済活力の維持・増進を図るため、観光を核とした地域振興に取り組む地域が増加傾向にあります。
- 小牧駅周辺部に広がる中心市街地は、市内でも特に人口集積の度合いが高い一方、建物の取り壊しや更地化を含めた小売店の用途転換・廃止のほか、駐車場や空き地、空き店舗などの低未利用地の存在が目立ち、中心市街地の求心力や賑わいが低下しています。
- 今後、自然、歴史、文化などの多彩な地域資源をさらに磨き上げ、その魅力を広く情報発信することで、まちのブランド力を高め、市内外の人的・物的交流の促進や地場製品の消費拡大、市民の愛着や誇りの醸成などさまざまな相乗効果を発揮できるよう、多様な主体との連携・協力のもと、より高い実効力を伴った地域振興施策を積極的に推進する必要があります。

◆基本施策の目的および体系

さまざまな地域資源を活用し、本市のブランド力を高めるとともに、本市の魅力を市内外に発信することにより、本市に「訪れたい人」「住みたい人」「住み続けたい人」を増加させます。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	基準値	目指す方向性
小牧市の定住人口	153,170 人	H30 の推計人口を上回る
小牧市の交流人口*	2,318,896 人 (H24 年)	

◆基本施策の展開方向1：都市のブランドイメージを構築します

【目的】

- 本市が持つ豊かな自然や歴史、文化、特産品などさまざまな地域資源を活用し、ブランドブック*に示す都市のブランドイメージを醸成します。

【手段】

- ①市民や企業、関係団体など多様な主体と協力・連携し地域資源のブランド化に向けた推進体制を構築します。
- ②広報こまき、ホームページ、SNS*などさまざまな媒体を活用して小牧の魅力をより効果的に市内外へ情報発信します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
小牧市のブランドロゴマークおよびキャッチフレーズを知っている市民の割合	—	

◆基本施策の展開方向2：観光推進体制を強化します

【目的】

○小牧山城 450 年記念事業を契機として、小牧市民が自分たちの住むまちに誇りと愛着を持ち、また市外からも訪れてみたいと支持されるような魅力のある都市を目指します。

【手段】

- ①自然、歴史、文化、特産品などの多彩な地域資源を活用し、特色ある観光事業を実施します。
- ②広報こまき、ホームページ、SNS などさまざまな媒体を活用するとともに観光案内所などにおいて観光情報の発信や提供を行います。
- ③観光協会の自立化を進めるとともに、市民活動団体、地域住民、関連企業および大学との連携を密にするなど、観光推進体制を強化します。
- ④近隣市町村および観光協会との交流を図り、広域的な魅力ある観光地域づくりに取り組みます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
主要な観光施策・資源の利用者数	833,297 人 (H24 年)	

◆基本施策の展開方向3：魅力あるイベント・まつりを開催します

【目的】

○イベントやまつりなどにより、市民の連帯感や地域に対する誇りを高めます。

【手段】

①参加者と観客の垣根がない、熱気と一体感を伴った魅力あるイベントやまつりを開催します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
市が主催するイベントやまつりに参加した市民のうち、満足している市民の割合	77.3%	
市が主催するイベントやまつりに満足している、または楽しみにしている市民の割合	56.0%	

◆基本施策の展開方向4：中心市街地を訪れる人の数を増やします

【目的】

○小牧駅周辺に広がる中心市街地への来街者数を増やし、まちに賑わいを呼び起こします。

【手段】

①ハード・ソフトの両面から、来街者が快適で安心して買物・イベントなどを楽しめる環境づくりを推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
中心市街地が賑わっていると思う市民の割合	27.8%	
中心市街地の主要な施設の利用者数	316,615人	

◆基本施策の展開方向5：都市間交流の推進および国際感覚を醸成します

【目的】

- 国際社会に必要な幅広い視野と豊かな人間性を育みます。
- 国籍の異なる市民同士が地域社会の一員として支え合う多文化共生^{*}社会を形成します。

【手段】

- ①児童・生徒を中心に姉妹都市や友好都市との交流事業を推進します。
- ②国籍・民族・文化・言葉など互いの「ちがい」を学ぶ機会を充実するとともに、外国人市民と交流がしやすい環境づくりを推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

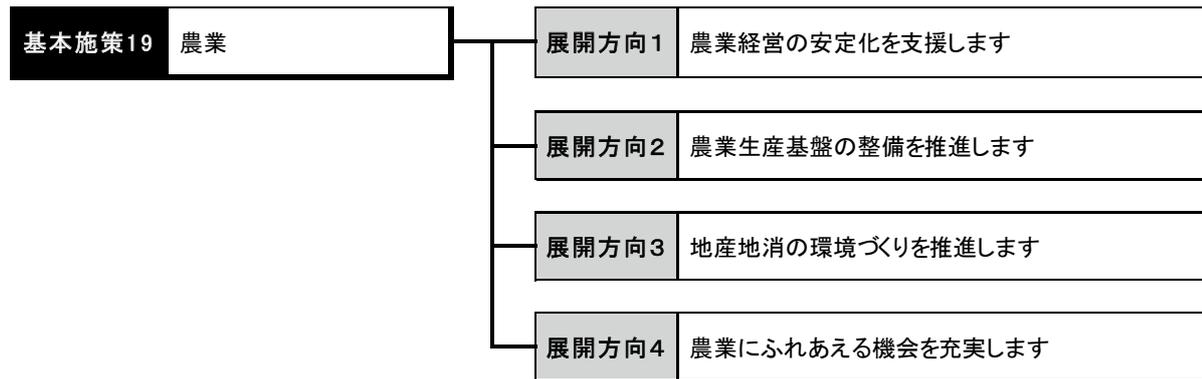
指標名	基準値	目指す方向性
外国籍市民と地域で共に暮らしているまちと思う市民の割合	62.7%	
国際交流事業などへの年間参加者数	2,014人	

◆現況と課題

- 先進国の中では、食料自給率が最低水準にあるとされる我が国では、異常気象による主要生産国の減産をはじめ、各種の食料安全保障上のリスクに直面しています。このような状況下、国内の農業生産を増大させることを基本に、これと輸入を適切に組み合わせながら、食料の安定供給の確保を図ることが我が国全体の重要な政策課題の1つとなっています。
- 自動車産業に代表されるものづくりの中心地として知られる愛知県は、平成22（2010）年の農業産出額が2,962億円で全国第6位と、国内有数の「農業県」としての性格を併せ持っています。小牧市は、米が市内全域で生産されておりますが、収穫量が年々減少傾向にあります。
- 近年、専業農家数は概ね横ばいですが、兼業農家数においては、減少が顕著になっています。また、市東部において桃やぶどう、いちじくなど果物の生産が盛んであり、特に「しのおかの桃^{*}」は全国的にも名高い逸品として知られています。
- 安全・安心な農産物の提供、地産地消^{*}による食育の推進、ゆとりや潤いを醸し出す良好な地域環境保全など、農業・農地が担っている多面的な役割が将来にわたって適切に発揮されるよう、地域ぐるみで農業を支える必要があります。

◆基本施策の目的および体系

市民の農業に対する理解を深めるとともに、安定した農業経営と農業生産基盤の維持・向上を図り、優良な農地を保全します。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	基準値	目指す方向性
農家1戸あたり生産農業販売実績額	263千円	
耕作放棄地 [*] の面積	13ha	

◆基本施策の展開方向1：農業経営の安定化を支援します

【目的】

○地域農業の担い手を育成・確保し、効率的で安定的な農業経営を促進します。

【手段】

- ①新規就農者や農業後継者に対して補助制度や融資制度の情報提供などを行います。
- ②意欲のある農業者を発掘し、「小牧市 人・農地プラン^{*}」に地域の中心となる経営体として位置付けた農業者を増やします。
- ③生産者、大学などと連携し、「しのおかの桃」に代表される小牧市の農産物の高付加価値化を進めます。
- ④ヌートリア^{*}、アライグマ、カラスなどに対する防除事業を実施します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
新規農業就業者数	1人	
認定農業者数	21人	

◆基本施策の展開方向2：農業生産基盤の整備を推進します

【目的】

○食料生産に不可欠な農業用水を効率的・安定的に確保します。

【手段】

- ①かんがい用施設を整備します。
- ②良好な営農活動に必要な農業用水の安定的供給を確保するため、ため池を適切に整備します。
- ③林道整備や森林病虫害の防除を計画的に実施します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
かんがい用施設整備の受益面積	—	

◆基本施策の展開方向3：地産地消の環境づくりを推進します

【目的】

○生産者と消費者の交流を促進するとともに、新鮮で安全な地元農産物の域内消費を拡大します。

【手段】

- ①地元で生産された新鮮な農産物を入手できる直売所や朝市などの情報を積極的に発信します。
- ②農業祭（いきいきこまき）などのイベントや催し物において、地元農産物利用のPRや、食文化の伝承活動を推進します。

③ 農業者に対して栽培記帳（トレーサビリティ[※]）の重要性を啓発します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
身近な地域で採れた農産物を食べるように心掛けている市民の割合	52.5%	
地産地消をテーマとしたイベントや催し物への参加者数	23,000 人	

◆ 基本施策の展開方向 4：農業にふれあえる機会を充実します

【目的】

○ 農業・農地が担っている多面的な役割に対する市民の理解を深め、地域ぐるみで農業を守り支えていく活動につなげていきます。

【手段】

- ① 市民菜園事業や農業体験事業など市民が農業とふれあえる機会を増やします。
- ② 地域による農地・農業用水などの保全向上活動を支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

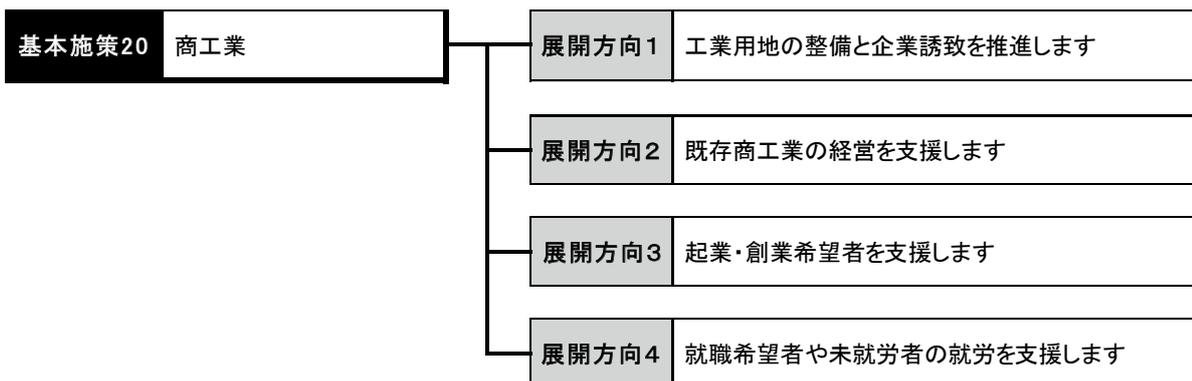
指標名	基準値	目指す方向性
市民菜園の利用面積	3,110.5㎡ (H25 年度)	
農業体験事業の参加者数	103 人	

◆現況と課題

- 小牧市は、東名、名神高速道路などの広域交通網に加え、市域南部の県営名古屋空港とともに、陸空の交通の要衝として機能しています。また、昭和 30 年代の工場誘致条例の施行により、製造業を中心に多くの事業所が立地しています。
- 広域交通体系の利便性に恵まれているとともに、名古屋を拠点とするさまざまな関連企業に近い立地条件を備えており、新規産業の立地に高い優位性を備えています。また、製造業においては、特定の業種に特化せず、さまざまな業種がバランスよく立地しており、経済環境や市場の変化に対し強みを持った産業構造を有しています。
- 小牧市では、市の強みや特性を活かした産業の集積・形成などを図るため、平成 24（2012）年 3 月から「産業立地戦略会議」を開催し、産業支援、創業支援および企業立地のあり方について議論しています。
- 小牧市が都市としての経済活力をさらに高めるためには、国の動向を注視しつつ、広域交通網の結節点に位置する地理的優位性を活かし、市外からより多くの人と企業を呼び込むとともに、既存企業の活性化や就労対策の強化などにより、地域の中でより活発な経済循環が生み出される強固な産業構造を構築する必要があります。
- 産業立地戦略会議での議論を踏まえ、産業支援および企業誘致のあり方についての方向性や具体的な施策の内容を「(仮称) 産業振興基本計画」へ反映させるとともに、これらを継続的に実施していくことが重要です。

◆基本施策の目的および体系

市外からより多くの人と企業を呼び込み、雇用の拡大にも結び付くよう、小牧市の強みや特性を活かしながら、バランスのとれた足腰の強い産業構造を構築します。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	基準値	目指す方向性
市内総生産額*の県内順位	8位 (H22年度)	
従業者数	51,804人 (H24年)	

◆基本施策の展開方向1：工業用地の整備と企業誘致を推進します

【目的】

○市内への企業誘致や投資を促進するとともに、新たな成長産業を育成・誘致します。

【手段】

- ①情報収集に努め、新たな工業用地を確保するとともに、各種規制の見直しによる企業ニーズを踏まえた立地環境を向上させます。
- ②航空宇宙産業分野に参入している、参入に関心のある企業に対する支援を推進します。

③企業立地を促進するための体制づくりや支援制度を充実します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
新規進出企業の累計数	12社 (H23年)	
1事業所あたり製造品出荷額等*の県内順位	19位 (H23年)	

◆基本施策の展開方向2：既存商工業の経営を支援します

【目的】

- 地域経済を支える中小企業の経営基盤を安定、成長させます。
- 地元商店街における集客力を向上させ、消費を拡大させます。

【手段】

- ①中小企業の負担を軽減するため、各種の補助事業を通じた支援を行います。
- ②中小企業の経営課題や新たな事業展開に対し、各種産業支援機関と連携し相談・助言を行う支援体制を構築します。
- ③商店街や商業団体などが実施する事業を支援するとともに、地域の小規模企業の継続的な経営を支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
これからも小牧市で操業を続けたいと思う企業の割合	—	
小牧市の産業支援策について、他市と比べ充実していると思う企業の割合	—	

◆基本施策の展開方向3：起業・創業希望者を支援します

【目的】

○市内で新たに起業、創業を行う人々への支援をします。

【手段】

①セミナーなどにより起業、創業希望者に対して必要とされる創業計画の作り方、税法、資金調達方法等の基本的知識を提供します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
起業（創業）者数	5人	

◆基本施策の展開方向4：就職希望者や未就労者の就労を支援します

【目的】

○ふるさとハローワーク*などの関係機関との連携・協力のもと、就職希望者や未就労者の就労を支援します。

○市内中小企業で働く人々の福利厚生を支援します。

【手段】

①さまざまな媒体を活用した求人情報の提供や職業相談、職業紹介などを行います。

②「小牧勤労センター」の運営など各種福利厚生サービスを提供します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向性
就職者数	437人	